

令和4年度 第56回 中学生の「税についての作文」

町田市教育委員会教育長賞

『子供たちを救う税金』

町田市立町田第一中学校 3学年 深見 眞咲

中学二年生のある日、いつも通り放課後に友人と部活に励んでいたときのことです。膝に痛みを感じました。どうしたんだろう、どこかでぶつけたのかな。最初は軽く考えていました。私は卓球部に所属していて、放課後になると大会に向けて友人と練習をし、毎日充実した日々を送っていました。

練習を終えて家に帰った後も、膝の痛みは消えていませんでした。夕食の時、母に膝が痛いことを伝えると、明日病院に行こうと言われました。

次の日、少し緊張しながら母と病院を受診しました。膝や足のレントゲンを何枚か撮り、病院の待合室で、「お母さん、今日たくさんレントゲンを撮ったから治療費高そうだね。」と言うと、母が、「子供の治療費は、二百円だから心配しなくても大丈夫だよ。」と言いました。私は驚きと共に、とても安心し、ホッとしました。病院の帰り道、私は、子供は、どうして二百円で済むんだろうと疑問に思いました。そして、調べてみる事にしました。調べてみた結果、私が病院の治療費を二百円にもらえているのは、町田市の税金でまかなわれているからだという事が分かりました。なんて有難いことなんだろうと思いました。

そこで、私の身の周りで税金でまかなわれているものは他には何があるのだろうと知りたくなり、調べてみることにしました。私が学校で使っている机や椅子、教科書も税金で買って頂いているという事が分かりました。私に通っている中学校は、昨年度から新しい校舎に建て替えられたのですが、その費用も税金でまかなわれていた事も知りました。

このように、私の身近な場所にも税金が使われているという事を知り、これからも日々感謝しながら大切に使用していきたいと思いました。みなさんが納めてくれた税金のおかげで、新しい校舎で充実した学校生活を送ることができ、日々勉強をさせていただいている事に幸せを感じました。そして、今までは、誰に買ってもらっていたのか考えた事もなかった事に気づき、反省しました。

世の中には、裕福な人もいれば貧しい人もいます。貧しさから、子供を病院に連れて行くことが出来ず、治療を受けられない子供がいるかもしれません。しかし、税金で治療費をまかなっていただけることで、未来を担う子供達がたくさん救われるのではないかと思います。

私は、まだ子供で支えてもらう側ですが、大人になったら一生懸命働いて、税金をしっかり納めたいです。そして、自分が支えていた分、未来の子供たちを自分の精一杯の力で支えていきたいと思っています。